

P85・C-4 古和釜町／東光寺 市指定有形文化財(彫刻) 見学自由

全国行脚の最後の地に安置された石仏

せき ぞう じ きゅう だい とく ぞう
石造自休大徳坐像

高さ27cmの石造自休大徳坐像



背中には「自休大徳」の文字が刻まれている



北部エリア

石造自休大徳坐像は東光寺の厨子に納められていたものです。高さ27cm、袈裟をかけた僧形の坐像で蓮華座の上に載せられ、像の背面には「自休大徳」という文字が刻まれています。

背面の文字の“自休”とは江戸時代初期の侠客、深見十左衛門の号です。古伝によると、十左衛門の父は福島正則の武将で、十左衛門自身も藤堂家に仕える高禄の士でしたが、自ら浪人し侠客の頭になりました。しかしその後、幕府に捕らえられて島流しになり、約30年後に赦されて江戸に戻ってくると、剃髪して自休と号し、江戸駒込片町（現在の東京都文京区本駒込）の龍光寺内に庵を結びました。

剃髪後に石工に刻ませたのがこの石仏といわれ、十左衛門に長い間仕えたものが、その没後にこの像を持って全国を行脚し、最後にたどり着いたのが古和釜の地だったため、石仏を東光寺に安置したと伝えられています。

所 船橋市古和釜町365

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

🚗 JR船橋駅または新京成電鉄 北習志野駅からバスで「古和釜十字路口」下車、徒歩3分

📅 昭和40年3月17日



P84・B-4 大穴北／西光院墓地 市指定史跡 見学自由

船橋が生んだ著名な文化人を物語る史跡

俳人齋藤その女の墓

齋藤その女は江戸時代後期に活躍した女流の俳人です。松平氏知行所5ヶ村（現在の^{おおあな}大穴・^{こわがま}古和釜・^{つばい}坪井・^{かねほり}金堀・旧永治村白幡）の名主総代をつとめた豪農の家に生まれました。齋藤家は俳諧を好む風があって幼い頃からその影響を受け、当時有名だった江戸の俳人^{なつめせいび}夏目成美などに師事しました。天保7年（1836）には亡夫の7年忌に合わせて^{さいこういん}西光院に供養塔を造立。塔には「^{ほととぎす}極楽の鐘をかぞへて杜鵑」という句が刻まれています。

老境に入ってからその女は、有望な若手俳人を後援したり、自ら何人かの弟子に俳諧の指導もしています。神仏をあつく信心する晩年のその女は「ただ俳（俳諧）と仏との二筋に心をよせておのずから禅味を悟る」と評されています。

文久元年（1861）の春にはその女80歳の祝賀の会がひらかれ、秋には記念に『^{たのむかげしゅう}憑蔭集』という句集を作って関係者に配りました。この句集の巻頭には親交のあった江戸の^{まきえ}時絵師の^{しばた ぜしん}柴田是真が描いたその女の絵が載せられており、交友のあった俳人たちの句も多数収載されています。

その女は慶応4年（1868）に87歳（あるいは88歳）で死去しました。墓石は夫の没後にその女が建立したとみられる唐破風付の豪華なものです。

二宮神社には市指定文化財「齋藤その女等奉納句額」（P56）があります。



所 船橋市大穴北5-3-1
☎ 047-436-2898
（船橋市教育委員会 文化課）
交 JR船橋駅、新京成電鉄 北習志野駅からバスで「古和釜十字路」下車、徒歩10分
指 昭和40年3月17日



◀墓石は唐破風付の豪華なもの

P84・B-1 大神保町／西福寺 市指定有形文化財（彫刻） 見学の際は要事前連絡

胡粉地に施した彩色がほぼそのまま残っている

木造毘沙門天立像

江戸時代初期の作と推定される西福寺の「木造毘沙門天立像」。像高は60cm、寄木造・彩色仕上げで、玉眼が入れられており、像の胎内には明暦2年（1656）板行の法華経が納められています。台座の高さは23cmで、二邪鬼まで一材で作られています。

左手と掌の宝塔、光背の輪宝光は後から補われたものだと考えられますが、右手にもつ三叉戟は製作当初のものとみられます。また胡粉地（胡粉の下地）に施した彩色はほぼそのまま残っていますが、台座は胡粉まで剥落してしまっています。

西福寺はもとは一向宗の寺でしたが、戦国時代に日国によって日蓮宗の寺として再興されました。寺はその後、日国の子の日用が継ぎ、日用が慶長17年（1612）に没していることから、この木造毘沙門天立像は、日用かその子の日玉が残したものとみられています。



像は現在、本堂内に安置されているが、もとは境内の毘沙門堂にあった

北部エリア

所 船橋市大神保町282

☎ 047-436-2898

（船橋市教育委員会 文化課）

交 JR船橋駅北口、新京成電鉄 三咲駅からバスで「西福寺入口」下車、徒歩10分

指 昭和41年2月22日

【地図は右ページ参照】

P84・B-1 大神保町／西福寺

市指定有形文化財(考古資料)

見学の際は要事前連絡

鎌倉時代の貴重な板碑

いた び
板碑(弘安九年七月十五日在銘)

「弘安九年七月十五日」と紀年銘が刻まれた西福寺の板碑。縦57cm、幅27.5cmの武蔵型板碑で、石質は粘板岩です。山形の頂部には二条線の切り込み、身部の上部は天蓋で飾られ、蓮華座には阿弥陀如来の種子であるキリークが大きく彫られています。

大きさは中型ですが、薬研彫り(溝がV字型の彫り方)で深く、見事に彫られています。下部は欠失してしまっているものの、残存部は傷みも少なく、保存状態は良好です。

寺伝によると、この板碑は江戸時代前期に西福寺と合併した円福寺跡

(西福寺から西に200mほどの場所)から出土したものだといわれています。西福寺・円福寺は共に、元は一向宗でしたが、室町時代末期頃に日蓮宗に改宗したと伝えられています。この伝承の真偽はともかく、板碑は日蓮宗改宗前のものであり、郷土資料としての価値も高いものです。

所 船橋市大神保町282

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 JR船橋駅北口、新京成電鉄 三咲駅からバスで「西福寺入口」下車、徒歩10分

指 昭和41年2月22日



▲板碑には梵字のキリークが大きく彫られている

北部エリア

